

水虫

のもと皮膚科クリニック 野本 真由美
(2006年4月3日放送)

Q 水虫とは？

A 水虫は、正式な病名を足白癬（あしはくせん）といいまして、白癬菌というカビの一種が、皮膚の表面の角質層に感染して起こる病気です。

Q 水虫の症状とは？

A 水虫は趾（ゆび）のまたのところにできやすくて、水ぶくれができたり、皮がむけたり、ジクジクしたりします。かゆみがあることが多いです。

Q 水虫は足だけの病気ではない？

A 足だけではなく、体のいろいろな部位に生じます。それぞれ病名がついていて、手であれば手白癬、ももの付け根では股部白癬、胸や背中であれば体部白癬と呼んでいます。俗にインキンといわれるのは股部白癬、タムシといわれるのは体部白癬のことを指しています。これらは、水虫と同じ病気と考えていただいてよく、治療法もほぼ同じです。

Q かゆみのない水虫もある？

A 足白癬を分類しますと、趾（ゆび）のまたに生じる趾間型と、水ぶくれを生じる小水疱型と、足の裏全体がガサガサして厚くなる角質増殖型の3つになります。趾間型と小水疱型ではかゆみがありますが、角質増殖型はかゆみがないことが多いです。

Q 水虫の検査とは？

A 水虫と診断するには、皮膚の症状だけでは不十分で、顕微鏡検査によって実際に白癬菌が増えていることを確認する必要があります。というのは、皮膚の症状が水虫とよく似ていても、実際は違う皮膚病だったということ

もよくあるからです。自己判断で治療を開始せずに、必ず皮膚科に受診して、顕微鏡検査を受けることをお勧めします。

Q 検査はすぐにできますか？

A 足の薄皮などを採取しまして、苛性カリで角質を溶かして、実際の菌の存在を顕微鏡で確認するもので、5分くらいで終わります。実際に増殖している白癬菌の姿をご覧になることもできますので、ぜひ検査を受けることをお勧めします

Q 水虫の治療は？

A 治療は単純で、趾間型と小水疱型については、抗真菌剤といわれる外用剤を塗るだけで治癒します。ただし、外用する期間が問題で、長い期間、根気よく塗っていただくことが重要で、外用を中断すると再発を繰り返すこととなります

Q 治療の期間は？

A 趾間型では1～2ヶ月、小水疱型では2～3ヶ月は外用を続けていただきたいと思います。皮膚の症状が全く消失してからも、約1ヶ月は外用したほうがよいと思います。抗真菌剤をきちんと塗っているのに、治らないばかりかかえって悪化しているという場合がありますが、おそらくそれは水虫が悪化しているのではなく、外用剤によるかぶれ、つまり接触皮膚炎を生じている可能性が高いので、注意が必要です。

もう一つの角質増殖型は、外用剤だけでは治りにくいので、抗真菌剤の内服治療を行うことがあります。